

〔下學集〕下財富フ士籠シ或作ニ臥籠ゴ、香匙カウシ、火箸カウジ

〔運歩色葉集〕賀開香爐カキカウロ、〔同〕婦臥籠フゴ、薰籠カウロ

〔饅頭屋本節用集〕加財寶カウバウ香合カウバウ、香筋カウバウ、〔同〕機財寶カウバウ香匙カウシ

〔尺素往來〕火取并罩香爐香合香箸火匙香檯香餌香袋香裏香鋸香刀鏡白鏡杵梅杵梅匙等者用意仕候了、

〔瑤囊抄〕七唐香合等ニ、チツコウ、チツキント云字ハ如何、剔紅、剔金ト書ク剔ハ刮也ト尺セリ、刮ヲバ又削ニ作り、摩ニ作レリ、ケヅリミガク心也、加之堆紅、堆朱、堆烏、堆漆、犀皮、玳瑁、圭璋、雲朱、鷄楊、鷄漆、金系華、紅花、綠葉、九連糸ナンド云アリ、是皆其品名也、楊茂、柳成等ハ、作者名也、又靈芝、一花、三花ナンド云モ、手ノ名也、縱靈芝ニ非ザル物ヲ掘共、爾云也、一花、三花モ以テ同ジ、各其ニ於テ、名譽スルガ故ニ、以テ名トスト云ヘリ、

〔五月雨日記〕きん九分ニ一分ノ香二種ノ時ハ二枚、三種ノ時ハ三枚、或五種十種も同事也、同きんにては香うつり匂ひまざる、ゆへ也、

きむばさみ香だ、みノ下ノ口へ入ル、爪かゝるほどに出す也、略 圖

香箸 長サ四寸二分、銀ニテ作ル、四角也、さきに香はさむ所少つくる、おとさぬためなり、略 圖

香箸はさみ、香壘ノ上ノ口へ入ル、爪かゝるほど出す也、略 圖

後普光園院殿説に、香合の盆はぬり、或はなし地、貝にても、かねの類にても、繪様はなきもの也、香盆銀ニテみがき内へ木を入、かろきやうにするなり、香合のときは香だ、みのあしでの繪にさしあふ事もあるゆへ、毛ぼりなどはせぬ事なり、盆は四角四方へ出たるはみ、なり、竪七寸八分、横七寸二分、高サ三分、

香盆に火とりすへ様略 圖